

事業状況報告書

(令和2年4月1日から令和3年3月31日)

本年度は法改正による財団法人から、一般財団法人に移行し8年目を、青川峡キャンプパークは開設から18年目を、阿下喜温泉は指定管理開始から11年目をそれぞれ迎えた。

令和2年年明けから新型コロナの感染に伴い、外出自粛が要請され未知の恐怖から、経済活動や生活形態が一変した。

緊急事態宣言が発せられたことにより、青川峡キャンプパーク、阿下喜温泉とも、最も客足の多い4月下旬から5月いっぱい完全休業した。

その後も感染の大きな波があり、緊急事態宣言及びまん延防止等重点防止措置が度々発せられたこともあって来場者数、売上金額とも大きく落ち込んだ。

この間多くの情報を集め、市の指導をいただきながら、感染対策に万全を期した。おかげさまで、お客様ならびに従業員から感染者は一人も出さずに経過したことは、大変ありがたいことであった。

本年度の決算においては、少額ではあるが黒字決算とすることが出来た。

新年度においては、感染対策で期待されるワクチン接種が予定より順調にすすんでおり、両施設とも徐々ではあるが来場者も増加傾向にあり、何とかコロナ前の実績に近づくよう役職員一丸となって取り組んで行く。

I・キャンプパーク事業部

近年の続くキャンプブームにより、キャンプのニーズは高く予約の入りは順調であったが、新型コロナの感染拡大により、特にGWの期間をまたぎ全国で緊急事態宣言が発表され、キャンプ場も4月25日から5月末日まで臨時休業とした。また、第二波が夏休みと重なったことや、秋にかけて一旦盛り返したが、第三波が冬休みと重なるなど、集客の見込める期間とコロナの感染拡大が重なったことが業績に大きく影響を及ぼした。

約1カ月の休業期間中は、通常営業時には難しい宿泊棟の外壁や手すりなどの修繕・交換工事や場内の樹木の剪定作業などを行い、パート・アルバイト従業員の雇用確保に努めつつ、営業再開時に利用者を気持ちよく迎えらるるよう、修繕・整備作業を中心に行った。

また、いなべ市の協力により、来場者向けの非接触体温測定器の設置や感染防止用備品を購入したほか、三重県の助成金・協力金を利用し管理棟やサニタリー棟などの共用施設へのアルコール消毒の設置、会議室や従業員休憩室には遮蔽用アクリル板の設置を行い、利用者及び従業員の感染リスク軽減のため必要な措置を行った。

休業期間中は、雇用調整助成金、持続化給付金、宿泊予約延長協力金など公的助成金を活用して、減益を少しでも抑えるとともに、営業再開に向け、雇用の確保とより一層の感染予防対策に備えた。

キャンプパークにおける、今年度の事業収入は、148,057千円と前年対比80%、オートキャンプサイト収入は29,078千円と前年対比92%、宿泊棟収入は63,061千円と前年対比82%、入場者数は39,607人と前年比74%であった。

新型コロナの影響で利用者が減り、昨年も好調であったソロ・デュオキャンプの利用が昨年対比で101%増と倍以上の利用となった。

これはコロナ禍の中、屋外で活動するアウトドアやキャンプが注目を集め、また一人ないし二人での少人数の利用が、感染リスクも少ないことから大きな伸びを示した。新しい生活様式に対応した利用方法として、今後もさらなる利用増加が見込まれるので、ソロ・デュオキャンプを積極的にPRしていきたい。

清掃スタッフについては慢性的な人員不足となっており、特に女性の常勤パートの確保が課題となっている。今まであまり利用していなかったインターネットを主とした求人や、ダブルワークでの就業可などの募集も行った結果、こちらの予想以上の問合せや応募があったが、遠方の方が多い。

ダブルワークの場合、先方の希望の日時とこちらの要望が合致しにくいなど新たな課題も見つかった。引き続き従業員の確保に努めるとともに、パートスタッフの定着を図っていきたい。

また、コテージも開設から18年の経過による設備や備品の老朽化が顕著となってきた。建物外部の手すりなど、腐食の激しい箇所も出てきているので、交換修理や再塗装などにより、引き続き施設を維持管理していく。

青川はキャンプ場にとっても集客への大きな魅力となっており、特に夏場の営業に欠かすことができない自然環境である。近年、土砂の流出が懸念される青川の河川については、3ヵ年継続事業で行われていた後谷での堰堤工事が今年度で完成した。

また、青川上流部の土砂搬出も毎年度行われ災害リスクも大きく低減された。しかし期間が11月から翌年の4月までと半年間にわたり、ダンプの往来も多く事故の危険や、走行時の騒音や砂塵がキャンプサイトにまで飛散するなどといった課題もあり、工事に協力しつつも利用者に不満を抱かせない運営の必要性を感じた。今期工事終了後に県、市に当方からの要望を伝え、次年度工事までに痛みの激しい道路カ所の修繕等施工すると決定をいただいた。

さらに県、市、財産区との連携を密にし、取水源の確保や河川災害の被害を受けることが無いよう、引き続き環境を維持していく。

毎年5月に開催されているツアーオブジャパン (TOJ) や6月に開催されているいなべ・東近江ラリーの参加者宿泊施設として利用してもらっているが、今年度は新型コロナの影響により両大会が中止となった。こういったイベント行事や団体利用等の中止が相次ぐ中で、アウトドアメーカーによるオンライン展示会が、もしかかキャンプフィールドを会場として開催された。

また、アウトドアメーカーやショップによる店舗スタッフを対象とした講習会を行い、新型コロナでイベント会場としての利用が減少する中、実行できる企画を模索しているところである。7月と12月にはZIP-FMによるオンラインキャンプイベントをもしかかキャンプフィールドや水辺サイトで行った。新型コロナの感染リスクをできる限り減らし、新たな生活様式に対応したイベントとして、こういった形でのイベントを今後も継続的に開催できるように努めていきたい。

1. 施設別年間稼働率表

上期 183日 + 下期 182日 = 365日

区画 名称	年間稼働数	年間総数		稼働率	前年比率
		区画数	稼働日数		
オート サイト	7,947	21,535		34%	98%
		59	365		
アイランドコテージ コテージ	1,237	3,650		34%	83%
		10	365		
ログ ハウス	434	1,095		40%	81%
		3	365		
ログ キャビン	413	730		57%	88%
		2	365		
トレーラー キャビン	156	365		43%	87%
		1	365		
キャンピング サイト	826	2190		38%	81%
		6	365		

2. 令和2年度の運営から、今後の課題として次のような事があげられる。

① 新型コロナを踏まえた、新しい生活様式に対応した運営

新型コロナの感染拡大の防止を図り、利用者、従業員、関係者の三者が安心して利用し、勤め、取引できる環境の構築と維持に努め、感染による営業の停滞をできる限りなくすべくリスク排除を行い、事業の継続運営に努める。

② 平日の新規顧客層の開拓

平日の利用が多い学校や団体、今まで利用の少ない企業団体、ソロ・デュオキャンパーなど、平日の新規顧客層の開拓が必要である。

③ かもしかキャンプフィールドの利用拡大

学校以外の団体、青少年（子ども会、スポーツ少年団、学童保育など）、企業（研修、親睦会）、イベント開催など貸切り利用者を増やす方策の検討が必要。

④ キャンプ場の設備メンテナンス

設備の定期点検により、シャワー設備、管理棟浴場設備、コテージの給湯設備、電源設備など、運営の主幹となる設備機器の故障や不具合、老朽化が顕著となってきた。開設から18年が経過し、これらの機器の修理、入れ替えといったメンテナンスが引き続き必要である。

⑤ パート・アルバイトスタッフの確保

特に女性パートスタッフが高齢化している。人員数の確保とともに、若い年齢の雇用確保が必要である。ホームページや新聞折込み広告にて募集告知を行っているが、まだ十分な雇用確保には至っていない。インターネットによる求人広告やハローワークなどといった募集告知方法も加え、繁忙期に向けた人材を確保する必要がある。

⑥ 夏場の暑さ対策

猛暑により学校キャンプのキャンセルがでたことも踏まえ、一般利用者への影響も考えられる。今後猛暑、台風等の施設運営について検討したい。今年の夏期小学校キャンプは新型コロナウイルスの為、学校行事が中止となり、利用は0校であった。

★まとめ

今年度は、新型コロナウイルスの全国的な感染拡大により、事業にも大きな影響を受けた。また来年度以降も団体利用の減少やイベントの中止が考えられる。次年度以降の経営環境の更なる悪化も視野に入れ、新しい生活様式に適応した運営に移行し、できうる限りの対策と準備をしておく必要がある。

3. 公園管理事業

いなべ市との間で、青川公園管理委託契約を締結しており、年間を通して公園内にある遊具の保守管理や点検、修繕などを実施した。

今年度の実施内容は次のとおりである。

実施期間	実施箇所	実施内容
5月25日～6月3日	公園	樹木の管理及び公園の清掃等
7月1日～7月13日	公園	樹木の管理及び公園の清掃等
9月28日～10月12日	公園	樹木の管理及び公園の清掃等
年間	公園	遊具の点検・保守・修繕等

上記事業に対する、事業費として2,124千円を支出した。

II・阿下喜温泉事業部

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、国からの要請を受けて、4月22日から5月末まで休館とし、感染拡大防止に努めた。又、国、県の指針を基にアクリル板等の設置（フロント、売店、事務所）、自動検温器・消毒液の設置、館内の換気・消毒の徹底、マスクの着用、検温など感染予防に努めながら運営を行った。

また、雇用調整助成金、コロナ感染対策による補助金などを活用し、従業員の雇用維持、施設運営を図った。

昨年度の入浴者数は、88,636名で前年対比70.4%、売上額については、51,568,057円で前年対比70.6%となった。

上半期の入浴者数は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛や臨時休館により大きく減少した。（上半期前年対比54.7%）

下半期の入浴者数は、GOTOトラベル、GOTOイートなど国の経済活動施策の実施に伴い、9月のシルバーウィークを中心に徐々に回復傾向を見せ、10月には昨年とほぼ同水準まで回復した。しかし、11月以降はコロナ感染第三波の影響を受け、あげきのおひなさんは規模を縮小、梅まつり、クラブツーリズム、三岐鉄道ウォーキング等市内のイベントは中止をされた影響が来客減の要因となった。（下半期前年対比86.8%）

温泉イベントについては一部中止をしたが、三密を避けるなどの対策を行い、七夕、敬老の日に合わせた事業や琴の演奏会、周年祭を予定どおり実施した。

売上については、当日券の利用が新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛に伴い、平日が前年対比66.0%、土日が前年対比58.4%とそれぞれ減となった。

10月の当日券売上はGOTOトラベル、GOTOイートの実施に伴い、ほぼ今年の売上水準に近い回復となった。

回数券の売上は前年対比78.5%となったが、下半期は、前年対比90%と回復傾向となり、風呂の日（毎月26日）を中心にした購入がこれを支えている。引き続き固定客確保のため、風呂の日のPRを強化するとともに、新規のお客様の獲得に向け、いなべ市観光協会、三岐鉄道、農業公園や近隣観光施設と連携した新企画の検討や当温泉のPRを継続して集客増に努めたい。

いなべ市国民健康保険に加入の健診受診者を対象にした『お得（とく）クーポン』事業（無料入浴券2枚交付）の入浴者数は、前年対比90.9%となった。上半期は前年対比45.5%と減になったが、下半期については、前年対比146%と大幅な利用増となった。

令和3年3月、桑名市に新しく温浴施設が開業し、翌4月には南濃温泉が新しい運営事業者のもとリニューアルオープンしたが、現在のところ両施設の開業に伴う集客に影響はなく推移している。

引き続き、お客様が安心安全にご利用いただけることを基本に、特に新型コロナウイルスについては、定期的な換気、消毒を徹底するなど、適切な感染予防を行い、また来たいと思われるような温泉を目指して運営を行いたい。

1. 入浴促進とサービス向上

①御湯印めぐり (八湯に浸かって平癒祈願)

岐阜・三重県内の8つの温泉に入浴し、御湯印札を集める。

8枚の御湯印札で麒麟絵が完成

8施設の御湯印札獲得 抽選で景品をプレゼント

②西美濃スクラッチ

8月から3月までの第三日曜日にスクラッチの開催 (先着200名)

施設毎に当選者へ景品のプレゼント

阿下喜温泉 (入浴券、ピンバッチ、ボールペン) 計10名/月

※参加温泉

うすずみ温泉、藤橋の湯、湯元湯華の郷、池田温泉新館、本館、

養老温泉ゆせんの里、羽島温泉、南濃温泉

③ポイントカードと抽選会

毎週火曜日と毎月10日の入浴者に1ポイント付与、10ポイント獲得で

温泉無料招待券(1枚)のプレゼント、12月に20ポイント達成者を対象にした抽選会を開催し、回数券等のプレゼント

④イベントの開催

7月 七夕 玄関に設置した笹に願いごとを記入してもらい展示

9月 敬老の日 保育園児におじいちゃん、おばあちゃんへメッセージ
をヒノキに書いてもらい露天風呂へ浮かべる。

11月 いい風呂の日 入浴者全員に無料招待券のプレゼント

12月 クリスマス琴演奏

1月 新春書初め、お年玉 入浴者全員に無料招待券のプレゼント

2月 節分 入浴者全員に節分豆プレゼント

バレンタイン 入浴者、有料施設利用者にチョコのプレゼント

3月 周年祭 温泉・売店利用者に抽選で入浴券、食事券、地元特産品等のプレゼント

2. あじさいの店

①出荷業者

当初の14業者から、現在43業者の登録があり、地元特産品の販売や新商品の開発をとおして地域の活性化を図っている。

②委託販売額 13,812,911円 (前年対比74.7%)

販売手数料 2,118,413円 (前年対比74.8%)

温泉直営販売額 420,705円 (前年対比67.5%)

③品質のチェック強化 (賞味期限)、商品の在庫管理 (品薄防止)

④産直ソフトの導入

経理、バーコード、分析の効率化、出荷者へ毎日売上送信 (3回)

3. 青川峡キャンピングパーク優待券 5,673名

利用者数は、前年対比231.4%と大きく増となった。これは新型コロナ感染対策でキャンプ場の大浴場を閉鎖したことにより、温泉の利用増に繋がった。

4. 北勢線セット券

- ・“阿下喜温泉往復割引券”購入者は、前年対比68.8%に落ち込んだ。
新型コロナウイルスによる影響から6月、3月を除き利用客が減となった。
6月は前年対比113.6%、3月は前年対比119.4%と緊急事態宣言解除に伴い、外出が活発になったことによる利用増と考えられる。
- ・北勢線主要駅（西桑名、星川、東員、阿下喜）に毎月温泉イベントの掲示を行い、利用客へのPR、鉄道情報誌におけるPRに努めた。今後も三岐鉄道、北勢線対策室と連携をして販売促進を図りたい。

5. 施設関連（工事・修理など）

- ①設備監視パソコン更新
- ②排水中和槽記録計更新 紙記録⇒パソコンデータ記録（ペーパーレス）
- ③ヒートポンプ圧縮機交換
- ④かけ流しインバーター交換
- ⑤屋外監視カメラ
- ⑥源泉熱交換器プレートリコンディショニング清掃
- ⑦温度比例電動弁交換

6. 経費

- ①給与手当⇒1,804千円減
職員1名減
- ②広告宣伝費⇒1,034千円減
広告費の見直し
電柱広告削減、雑誌掲載削減、西美濃スタンプラリー中止
- ③水道光熱費⇒1,180千円減
臨時休館4月22日～5月31日
- ④イベント費⇒331千円増
東海環状道鈴鹿SA広告、いなべ市役所広告増

7. 健康増進

- ①トレーニングルーム
 - ・有料利用者は、前年対比40.3%となった。臨時休館、6月末までの利用中止が大きく影響した。
 - ・いなべ市国民健康保険に加入の健診受診者を対象にしたトレーニングルーム（無料）利用者については前年対比69.2%となったが、下半期前年対比142.5%となった。10月から新年度の健診クーポンが配布され、利用者が順調に増えたことが要因であると考えられる。
 - ・トレーニング機器の老朽化に伴い、今後新しい機器の導入も視野に入れながら健康増進につながるPRを継続していきたい。

②ラフィーラ健康体操

- ・一般の利用者は前年対比49.5%となった。
- ・いなべ市国民健康保険に加入の健診受診者に対するラフィーラ体操利用券（無料）の利用者は、前年対比86.2%となったが、下半期前年対比142.4%となった。10月から新年度の健診クーポンが配布され利用者が順調に増えたことが要因であると考えられる。

③マッサージ師 委託（桑員マッサージ協会の登録会員6名）

利用者は前年対比59.2%となった。

上期前年対比48.8%、下期前年対比70.1%の利用であった。

④マッサージ機 マッサージ機4台 フランスベット2台

マッサージ機の売上は前年対比59.8%となった。

現状を維持し、マッサージ師との併用に努めたい。

8. 地域活性化

①体験ホール

引き続きカワイ体操教室、サッカー教室、バレトン教室と連携して健康増進につなげるとともに、施設のPRと事業の定着を図る。

②古本市

地域住民の方が開催し、お客様からも好評を得て定着しているイベントとなっている。地域住民の参加による事業として今後も継続する。

③みたらし団子販売

地元米で作ったみたらし団子を玄関前で販売、地産地消として取り組み、期間限定の販売ではあるが、リピーター客もあり事業として定着してきている。